

## 実践事例



「読む」ことにつまずく子ども

## もくじ

どうして?「読む」ことにつまずく子ども	18・19ページ
ひらがなの読みが覚えられない	20~27ページ
ひらがなを単語のまとまりで読めない	28~33ページ
スムーズに読めず逐次読みになる	34~37ページ
カタカナが正しく読めない	38~43ページ
適切な速さで読めない(早い/遅いなど)	44・45ページ
ひらがな・カタカナ・漢字の混ざっている文がスムーズに読めない	46・47ページ
文字や行などを飛ばして読む	48・49ページ
省略したり置き換えたりして読む(勝手読み)	50・51ページ
似ている文字を間違えて読む	52・53ページ
漢字が読めない	54~57ページ
漢字の音読み・訓読みが正しくできない	58・59ページ
音読はできるが意味の理解が難しい	60~63ページ
コラム 子どもの意欲を引き出すために	64ページ
ふろく1 小さい「つ・ツ」は、どこにはいるかな?	65ページ
ふろく2 どんなものかな?	66ページ
ふろく3 つづけて読んでみよう!	67ページ
ふろく4 かんがえてみよう!	68ページ

# どうして？

## 「読む」ことに つまづく子ども

こんなことに  
困っている！

### 漢字が読めない

漢字の形や意味を正しく覚えられない

日? 池?  
? 休?

### 形の似ている文字を 間違える

「め」と「ぬ」、「る」と「ろ」など、  
形の似ている文字を判別できない



### 単語をまとまりで 読めない

逐次読みをしてしまうなど、  
文章をどこで区切るかわからない



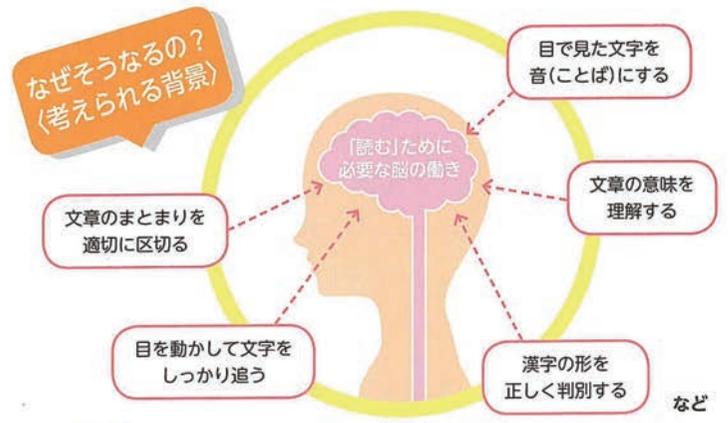
### 勝手読みをする

文字や行を飛ばしたり、  
単語や文末を読み間違えたりする

### check

#### こんなようすもみられます

- しりとりができない
- 文字が覚えられない
- 音読み・訓読みを間違える
- 文字を見て声に出すまでに時間がかかる
- 会話が詰まって遅かったり、早口だったりする
- 読んでいる場所がわからなくなる
- 会話のなかで語彙が少ない
- 文章の意味を理解できない



読むことにつまづくのは…  
情報処理機能の一部が未発達なため、見た文字をことばに変えるといった変換作業がスムーズにできない

友だちとのおしゃべりではスムーズに話せるのに、教科書を音読するときのことばが詰まってしまったり、勝手読みや形の似た文字を間違えたりするなど、「読む」ことにつまづいてしまう子どもがいます。  
文字を読むためには、脳の中でさまざまな情報の処理が必要ですが、そのどれか一つにでも支障があると文字を読み取ることが難しくなります。  
文字を読むことが困難な子どもたちは、

読めない状況に劣等感をもち、さらに読みに対して抵抗をもつようになる場合も少なくありません。  
指導者は、そのような子どもの気持ちを汲み取りながら、振り仮名を振ってあげたり、みんなの前で読む機会を減らしてあげたりするなど、教室のなかで子どもが自信を持って学べるような工夫をしていく必要があります。  
また、学級担任と指導の共有を図っていくことも大切です。

# ひらがなの読みが覚えられない①

つまずきのようす

- △ ひらがなの読みが覚えられない
- △ 一文字一音のルールが定着しない

こんな支援を!



○ キーワードを活用して文字に意味づけをする

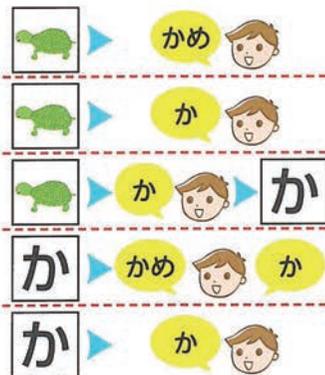
## 指導事例

### 文字と読みをキーワードでつなぐ

- 子どもが名前を知っている物(キーワード)を絵や図で示した「絵カード」と、キーワードのはじめの一文字を記した、「文字カード」を作成し、交互に見せながら文字に意味づけをして覚えていく。

例 「かめ」をキーワードにして文字を覚える

- ① キーワードを言う  
「かめ」の絵カードを見せ「かめ」と言わせる。
- ② キーワードの音を抽出させる  
「かめ」の絵カードを見せ、はじめの一文字の「か」と言わせる。
- ③ キーワードの絵と文字を対応させる  
「かめ」の絵カードを見せて「か」と言わせながら、「か」の文字カードを見せる。
- ④ 文字からキーワードを想起させ音を抽出させる  
「か」の文字カードを見せながら、「かめ」→「か」と言わせる。
- ⑤ 文字のみで音読させる  
「か」の文字カードを見せ「か」と言わせる。

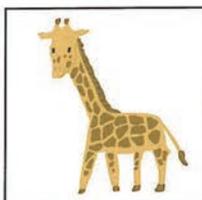
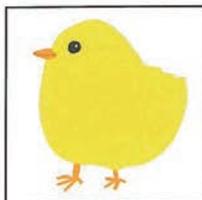
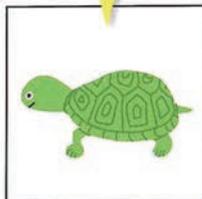


## 留意点

- キーワードは、子どもの知っていることばを選び、わかりやすい絵にする。知らないことばを使うと意味づけにならないので注意する。

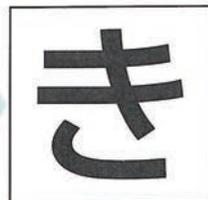
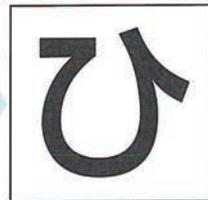
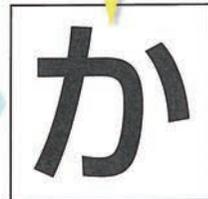
## 絵カード

キーワードを絵や図にしたもの



## 文字カード

キーワードの名前のはじめの一文字(かめの「か」)



## 特長

視覚的補助を活用し、文字と読みを「キーワード」でつないで意味づけをして覚える。

## 使い方

- 絵と文字を交互に見せて学習していく。
  - 絵カードを見せて、絵の名前を言わせる。
  - 絵カードを見せて、絵の名前のはじめの文字を言わせる。
  - 名前のはじめの文字を言わせながら、絵カードと文字カードを見せる。
  - 文字カードを見せながら、キーワード→キーワードのはじめの文字の順に言わせる。
  - 文字カードを見せて、そのまま音読させる。

## このような場面で

- ▶ 学習の「はじめ」や「終わりに」遊びとして取り組むことで、楽しみながら音読の発達をうながせる。

## point

- 絵などの視覚的補助は徐々に減らし、文字のみを読めるようにしていく。
- この指導のあとに、文字カードや単語カードをすばやく提示し音読させる練習(瞬間提示)をするのも効果的。

## ひらがなの読みが覚えられない②

つまずきのようす



- △ ひらがなの読みが覚えられない
- △ しりとりができない
- △ 音韻発達の遅れがある

こんな支援を！



○ ゲーム感覚で音韻の発達をうながす

### 指導事例

### ゲームで音韻を意識する

- 1 先生がそれぞれの面に、子どもが名前を知っている単語の絵を貼り、「音韻サイコロ」を作成する。
- 2 出た絵の名前の数だけ、すごろくのコマを進めるゲームを行い、音韻を意識していく。

- き → 1つ進める
- はな → 2つ進める
- つくえ → 3つ進める



コマを進めるときは、出たサイコロの絵の名前を呼称しながら進むと効果的

### 留意点

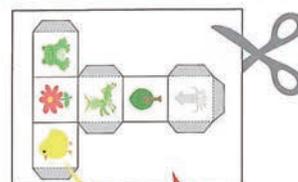
■ サイコロに貼る絵は、子どもが名前を知っている絵や図形にする。知らないことばを使うと意味づけにならないので注意が必要。



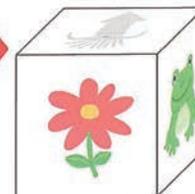
02\_音韻サイコロ.pdf

支援教材

### 音韻サイコロ



厚紙でサイコロを作り、それぞれの面に絵を貼る



### 特長

聴覚提示された単語を音韻に区切ってサイコロに見立て、遊びながら音韻発達をうながす指導。

### 使い方

- 厚紙などでサイコロを作り、面に絵を貼る。
- サイコロに貼る絵は、子どもの音韻意識<sup>\*</sup>の発達に合わせ、「き」「はな」「つくえ」など、1～5拍のことばからはじめる。

● 絵の音韻をサイコロの目に見立て、すごろくなどを行う。

\*音韻意識：「つくえ」の最初の音は「つ」とわかる」など、ことばの意味や音韻を意識する能力のこと

### このような場面で

▶ 学習の「はじめ」や「終わりに」遊びとして取り組むことで、楽しみながら音韻の発達をうながせる。

例1 基本音節+撥音(ん)サイコロ

- りす
- きりん
- いのしし など

例2 長音サイコロ  
長音=長くのばして発音する音

- しいたけ
- どうもろこし
- びいまん など

例3 拗音サイコロ  
拗音=小さく「や」「ゆ」「よ」を加えて表す音

- きゃべつ
- じゃがいも
- しょうぼうしゃ など

### point

● 音節の学習順序としては、基本音節+撥音→促音→長音→拗音→拗長音の順序で行うと効果的。

# ひらがなの読みが覚えられない③

つまずきの  
ようす



- △ 見た文字を声に出す(音に変える)までに時間がかかる
- △ 形の似ている文字(「め」と「ね」など)を読み間違えてしまう

こんな  
支援を!



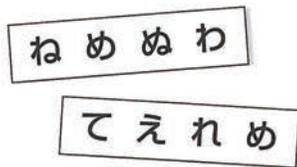
○ 文字カードや五十音表で読みを覚える

## 指導事例

### 文字カードで覚える

#### 文字列カード

- 「ね め ん わ」など複数個のひらがなが書かれたカード、またはスライドを提示し、「[め]はどれ?」と問い、子どもは指さして答える。
- あわせて、「五十音表」(次ページ)も活用して文字を確認していく。



#### 文字カード

- ひらがな1文字が書かれたカードを提示し、子どもは3秒以内に音読する。
- あわせて、「五十音表」も活用して文字を確認していく。



それぞれの活動と同時進行で、2~3文字の単語を提示して読みの練習を行うとよい。

#### 留意点

- はじめは大きな文字で提示するようにし、正答率が上がってくるにつれて、その学年の教科書で使われている程度の大きさにしていく。
- 子ども自身が読みやすいフォント(明朝体・ゴシック体・教科書体など)を選ばせてもよい。

## 支援教材

### 五十音表(ひらがな・カタカナ)

行ごとに覚えやすいよう色を変えてもよい

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
	リ		ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
ヲ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
	レ		メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ
ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お
ン	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ

#### 特長

ひらがな(清音)の読み間違えが多いに子どもに対し活用しながら文字を読む練習をしていく。

#### 使い方

- ① 子どもに、「あいうえお」「まみむめも」のように、五十音表の文字を行ごとに読ませ、覚えさせる。
- ② 次に先生が、「[め]はどこにある?」などと問い、子どもは表の「め」の位置を指さして答える。

#### このような場面で

- ▶ 通級指導教室での個別指導で
- ▶ 小集団での指導で

ゴシック体、教科書体など、子どもが読みやすい書体を選ばせてもよい

#### point

- 主に1年生での学習になるため、クイズやパズル形式にしながら指導していくよう心がける。
- 単語や文章の読みの課題とも連動してくるため、2~3文字ほどの単語や教科書の短文などでの課題と織り交ぜながら行い、マンネリ化を防ぐ。

# ひらがなの読みが 覚えられない④

つまずきの  
ようす



- △ 教科書などを読む場面で、読み飛ばしたり読み方を思い出すのに時間がかかったりする文字がある
- △ 読めるようになるまでに時間がかかる

こんな  
支援を!

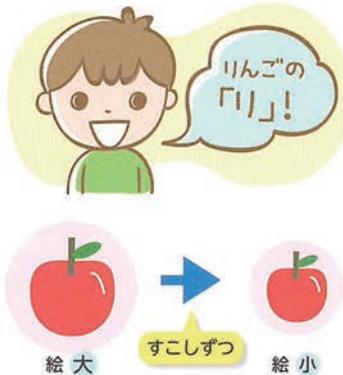


○ 絵カードを使って文字に意味づけをする

## 指導事例

### ひらがな絵カードで文字に意味づけ

- 1 子どもが正しく覚えられていない、ひらがなを確認する。
- 2 ①が語頭に来て(「ん」の場合は語中)、本人になじみのある単語と、その絵で「ひらがな絵カード」を作成する。
- 3 「ひらがな絵カード」を連続して提示し、子どもに見せる。このとき、「りんごの「り」」などと、必ず絵(単語)と文字をセットで読ませる。
- 4 はじめはカードの絵を大きめにして強調し、スムーズに言えるようになったら、絵を小さくしてカードを作成し、同様に読ませる。
- 5 最後は文字のみのカードで読みを定着させる。



## 留意点

- 文字を単独で覚えさせるのではなく、必ず絵(単語)とセットにして読むようながし、はじめのうちは教師も一緒に取り組む。
- 使用する単語(絵)は、本人にとってできるだけなじみのあるものがよい。
- 「ら→だ」「れ→で」など発音の誤りがある場合には、音を聞き分ける課題も並行して行うなど、ていねいに見ていく必要がある。

### step 1

絵大>文字小

「すいかの「す」  
というように、  
絵と文字をセッ  
トで読ませる



### 特長

なじみのある単語(絵や図)を示しながら、文字と音とを関連づけていく指導。子どもの知っている単語をやりとりしながら、短時間でテンポよく文字の確認ができる。

### 使い方

● 1枚に1文字だけ書いてあるカードのようなものをランダムに読ませ、覚えられていないひらがなを確認する。

\* 並び順を覚えていて答えられることもあるので「五十音表」は使用しない。

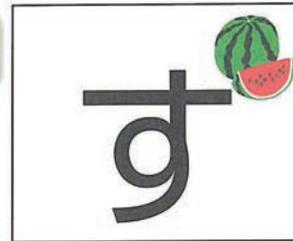
● 子どもが知っている単語のはじめの文字と、その絵を書いたカードを作成する。

● 子どもにカードを連続で見せながら、単語と文字をセットで読ませていく。

### step 2

絵小>文字大

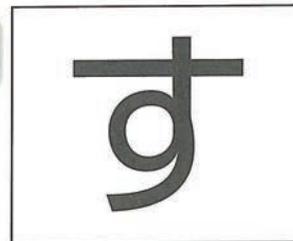
ヒントとなる絵を小さくして、step1と同じように絵と文字を読ませる



### step 3

文字のみ

最後は文字のみで読ませる



### このような場面で

▶ 通級指導教室での個別指導で使用方法が定着すれば、家庭でも同様の方法で取り組める。

### point

● 先生も一緒に声を出しながら、楽しく取り組むようにする。

# ひらがなを 単語のまとまりで読めない①

つまずきの  
ようす



- △ 文節の区切りがあいまいで、意味を理解しにくい
- △ 教科書の読みやテストで、文を読み解くのに時間がかかり、途中でやめてしまう

こんな  
支援を！



○ 文節の区切りを見つける練習をする

## 指導事例

### 文字をまとまりで区切る練習

- 15文字程度のひらがな文を提示する。
- 子どもは、文を意味のわかるまとまりで区切り、印をつける。
- 先生は、区切りが正しいかを確認する。
- 子どもは、文節の区切りの「間」を意識して音読する。
- 先生は、子どもが音読した文に関するクイズを出題し、正解できたら次の問題へ進んでいく。

例 「あかい／ぼうしを／ひろいました」の文なら、「帽子の色は何色？」と聞き、子どもは「赤！」と答える など



意味のわかるまとまりで区切る

## 留意点

- 速く読めることが読みの上達と誤解している子どもも多い。読みの上達は、文の意味の正確な理解ということをも、子どもの実態に応じて、ていねいに伝えていく。
- 用意するひらがな文の量や文字の大きさは、子どもと相談しながら調整するようにする。

## 特長

文章をまとまりで区切り、間において音読する練習をしながら文節に意識を向ける活動。

15文字程度の短文

意味のわかるまとまりで区切りの印を入れさせる(文字数や文字の大きさは、子どもの実態にあわせて調整する)

## 使い方

- ひらがなの短文を入力したプリントを用意し、区切り線を入れさせる。
- 音読させ、違和感を感じたら、区切り線の位置を訂正するようにうながす。

## このような場面で

- ▶ 通級指導教室での個別指導で  
通常の学級の放課後の補充学習や、家庭学習の課題としても活用できる。

- たいこを|たた|くれんしゅうを|する
- たいいく|かんで|かけっこを|した
- つちからは|なの|めが|でてきた
- ちかくの|こうえん|に|あそび|に|いく
- つばめが|いえ|に|す|をつくる
- ちいさな|しろい|ねこが|いる

読みの上達が目的なので、文節の概念は、「意味のわかるまとまり」と大まかに捉えるようにする

例 文節をまとめても正解とする

- ちいさな | しろい | ねこが | いる
- ちいさなしろいねこが | いる

## point

- 通常の学級で学習している国語の教材文を文節区切りの課題に発展させるとよい。
- 単語のまとまりの意識が弱い子どもは、板書内容の書き写しも一文字ずつ行うことが多いため、「意味のわかるまとまり」で書くことを意識した視写の課題に発展できる。
- 通級指導教室で行う場合は、学級担任に子どもの練習のようすを随時報告し、子どもの困難さの共有を図っていくようにする。

## ひらがなを 単語のまとまりで読めない②

つまずきの  
ようす



△ 語彙が少なく、単語をまとまりで読むことが苦手

こんな  
支援を!



○ 単語カードを連続的に見せながら  
読む練習をする

### 指導事例

### 単語カードで読みを定着させる

- 1 さまざまなジャンルの図鑑(動物・乗り物など)や絵本を用意し、子どもと一緒に読みながら図や絵の名前を確認していく。
- 2 先生がお題を提示し、交互にあてはまる単語(名前)を出しあう。子どもが単語を思い浮かべられないときは、再び図鑑で調べたり、先生がヒントを出したりしながら1人5単語(2人で10単語)を出す。



お題の例 「動物」「あ」のつく物 など

- 3 出しあった単語を、子どもは小さなカードのマスに書き、先生は子どもが書いたカードの文字をパソコンに入力し、スライドを作成していく。
- 4 子どものカード(または先生のスライド)を、瞬間的に連続で提示しながら、単語をまとまりで読む練習をしていく。

①~④を数回行い、カードの枚数を増やしながらくり返し練習し、語彙を増やすことや単語をまとまりで読むことにつなげていく。

### 留意点

- ひらがなを覚えていないなど、書く支援が必要な場合には、五十音表(25ページ参照)を黒板に貼り確認しながら行う。
- それでも書くことの負担が大きければ、単語の記録は先生のスライドのみでもよい。

### 支援教材

### 単語カード

子ども

お題の例 虫の名前

か

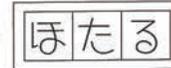


単語を考えて  
カードに書かせる

せみ



ほたる



使い方

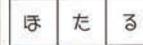
● 1~3文字程度で、それぞれ1マス=1文字で書き込めるマス目のあるカードを用意し、子どもに単語を書かせて連続で提示する。

● 子どもが挙げた単語を先生が入力し、パワーポイントにしてパソコン上で提示する(プリントアウトして提示してもよい)。

このような場面で

▶ 通級指導教室での個別指導で

子どもの字が小さい場合は、拡大コピーをする



スライドに  
していく

先生



point

- ゲーム感覚で楽しく行えるようにする。
- 子どもの実態によっては、国語などの教科書を活用し先取り学習として取り組んでいき、通常の学級でのスムーズな学習につなげることができる。

# ひらがなを 単語のまとまりで読めない③

つまづきの  
ようす



- △ 教科書などを読むときに、スムーズに読みはじめられない
- △ 逐次読みをしている
- △ 文字・音・意味がうまくつながらない

こんな  
支援を！



絵や補助線などを活用し、文字・音・意味を  
視覚的につなげる

## 指導事例

### 意味のまとまりを捉えやすくする

#### step1

- 1 広告や雑誌などの絵や写真を切り抜いてカードに貼り、裏面にその物の名前を書いて、「ひらがなマッチングカード」を作る。
- 2 一緒に読んで、読み方を確認する。その際、一音ずつ切らずに続けて読めるよう先生が手本を示す。
- 3 先生と子どもでゲームを行う。
- 4 1枚ずつスムーズに読めるようになったら、カードの文字側を表にして数枚並べて続けて読んだり、くり返すばやく見せたりして使う。



#### step2

- 5 この活動に慣れてきたら、教科書の文章から名詞(名前ことば)や動詞(動きことば)を探して囲ませたり、「分かち書き」や「文節に補助線を入れる」などして読みやすくし、続けて読むことを意識した音読の練習につなげていく。

例 ● これは、きつつきの くちばしです。  
● わたしは、どうぶつ園で/はたらいている じゅういです。

#### 留意点

- 子どもの実態にあわせて2文字のことばからはじめ、しだいに文字数を多くし、特殊音節を含むことばやカタカナも作成していく。

## 支援教材

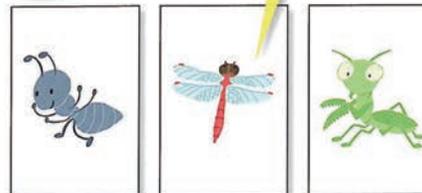
### ひらがなマッチングカード

06\_ひらがなマッチングカード.pdf

1 「読む」ことばをつまづきなく読む

#### カードの例

#### 表



絵や写真を貼る

#### 裏



絵の名前を書く

#### 使い方

- カードの文字側を提示し、子どもに読ませる。
- 裏返して、読んだ文字と絵の名前があっていたら、子どもはカードをもらえる。
- カードの枚数や種類を増やし、文字の提示時間を徐々に短くしながら、はじめて見るカードでもすぐに読めるよう練習していく(3文字が1秒程度で読めるようになるまで練習する)。
- 4文字の単語が1~2秒の提示で読み取れるようになると、長めの単語も比較的容易に読めるようになる。
- はじめに、数秒でカードを隠してしまうことを伝えると子どもの集中力を高めることができる。

#### このような場面で

- ▶ 通常の学級で授業の合間に
  - ▶ 家庭学習で
- 一人学習のときにも活用できる。

#### point

- 文字から具体的な物や動き、ようすなどを思い浮かべられるように、文字を読んだあとは絵や写真で確認し、「文字・音声・映像」を連動させて、イメージを浮かべながら読ませるようにする。



読んだ文字が絵と合っていればカードがもらえる

# スムーズに読めず 逐次読みになる①

つまづきの  
ようす



△ 教科書を音読する場面で、文字を追う視線と発声不一致で、逐次読みになる

こんな  
支援を!



○ 無意味音節でテンポ読みの練習をする

## 指導事例

### メトロノームでテンポ読みの練習

- 1 メトロノームを使い、子どもが乗ることができる速さのテンポを探す。
- 2 ①の速さよりもゆっくりのテンポを流し、手拍子を合わせる。
- 3 2音の無意味音節(意味のないことば)をパソコン画面でランダムに提示する。
- 4 次の2つの条件をクリアできたら3音へ、というようにステップアップして、4音までの音読がスムーズにできたらテンポを速めていく。



条件1 10回正確に読める 条件2 テンポを合わせられる

- 5 定着の状況にあわせてさらにテンポを速め、最終的にテンポ120(1拍に1文字)で読めるよう練習する。
- 6 テンポを意識しながら短文音読を行う。

15文字程度からはじめ、30文字程度を目標にし、スムーズに読めるよう練習していく(短文の文字数の30字は、テストの問題文の文字数を基準にしている)



音読に集中できるよう、タイミングを図りながら提示する

## 留意点

- スムーズな音読が可能なテンポや、特殊音節の読みの定着状況など、読みの実態把握をていねいに行う。

## 使い方

step1

2文字

なそ

step2

3文字

よえお

step3

4文字

くこきい

- 先生が、パソコン画面に無意味音節を提示する。

- 子どもが10回正確に、テンポを合わせて読むことができたら文字数を増やす。

- しだいにテンポを速め、メトロノームのテンポ120で読めるまで練習をしていく。

- メトロノームは、音読の妨害刺激にならないように、音量の調整を行う。メトロノームアプリをダウンロードし、タブレットなどを活用してもよい。また、無意味音節の単語作成ができる自動作成アプリなどもある。

## 応用



## このような場面で

- ▶ 通級指導教室での個別指導で通常の学級の補充学習でも活用できる。

無意味音節の中に意味のある単語も混ぜて提示し、見つけられたら「ビンゴ!」と言わせるなど、ゲーム感覚で取り組めるようにすると、意味理解への注意をうながすことも可能。

## point

- 毎日、短時間の練習時間を設定して継続する。
- 音読の定着状況を見て、子どもにパソコンの画面を操作させると興味を持って取り組むことができる。

参考文献 ● 「特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン」稲垣真澄著(診断と治療社 2010)

● 「アスペハート28・29・30号」読むって、本当は難しい(1)(2)(3) 齊藤真善著(アスペ・エルデの会 2011)

# スムーズに読めず 逐次読みになる②

つまずきの  
ようす



△ 教科書(とくにはじめて見る文書)を音読する場面などで、目で文字を追いつながら発声することが苦手

こんな  
支援を!



○ はじめて見る文章に慣れる練習をする

## 指導事例

### 音読の課題を意識する

- 1 はじめに、単語などをまとめて読む練習をする。
- 2 「[。]のところまで正確に読もう」などと、音読における子どもの課題を伝える。
- 3 文章を「黙読」させ、大まかに内容をつかませる。
- 4 そのなかで、わからない・読めない文字があれば確認する。必要に応じて、文節に区切り線をつけるなどして、音読のときのポイントにする。
- 5 文章を「音読」させる。
- 6 うまくできたところを伝えて意識させ、もう一度「音読」させる。
- 7 最後にプリントなどで文章問題を解き、内容を理解できているか確認する。

毎回ビデオで記録を取り、音読のよすの変化を見ていくようにするとよい



## 留意点

- はじめは1~2文字の音読からスタートし、字の大きさや配置について配慮し、なれてきたら「少しずつ文の量を増やす」「句読点で句切って読む」など、音読の技術を指導する。
- 指で追う、音読補助シート(49ページ参照)といった補助具を利用するなど、どのような方法が読みやすいか話し合いながら子どもと一緒に考えていく。
- 安心感をもって学習できるよう、子どもが取り組みやすい課題からはじめる。

## 支援教材

## おはなし読解ワーク

言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル  
[http://homepage2.nifty.com/kotobanotable/index\\_kz.html](http://homepage2.nifty.com/kotobanotable/index_kz.html)

## 特長

読みの課題があり、くり返しの練習が必要な子どもを対象に作られた教材集。

● 問題は文章量、表記、内容などの平易なものから、少しずつ難しいものの順で掲載されている。

● 一度の問題量が少なく、音読や国語に苦手意識のある子どもでも取り組みやすい。

● 読みにくい漢字には振り仮名が振ってあり、字も大きめで読みやすく、音読に専念しやすい。

「だれといったの?」などといった5W1Hでの表現が多く用いられ、日常会話の練習にもつなげることができる

## このような場面で

- ▶ 通級指導教室の個別指導で
- ▶ 通常の学級の補充学習で
- ▶ 家庭学習で

<初級編> 日記文・説明文・物語文を収録

<中級編> 説明文を中心に収録

<上級編> 物語を中心に収録

つばささんの日記(1)

きょう こうえんに いった。  
おかあさんと いった。  
ふたりで あいすを たべた。

1 日記に いったの?

2 日記と いったの?

3 日記を たべたの?

きょうの日記(1) かき

かきは、雨の日に さすもの、  
いつもは、たんで おいてある。  
でも雨がふってきたら ひらいて つかう。  
かきは、「おいたまじりのものや「じどう」  
のものもある。  
ねだんは、1本500円から2000円くらい。

1 かきは、いつ さすものですか?

2 雨がふってきたら、どうやって つかうですか?

3 かきは、どんなもの ありますか?

4 ねだんは、1本 どれくらいですか?

## point

- 音読練習をしながら「このようにすると読みやすい」と子ども自身がつかんでいけるように指導していく。
- 改行や句読点、助詞の部分など子どもに課題を伝え、意識しながら読めるようにする。また、うまくできたところをほめて自信につなげるとよい。
- 連絡帳などを通じて、保護者や学級担任と、うまくできたところや支援のポイントなどを伝えて共有していく。

# カタカナが 正しく読めない①

つまずきの  
ようす



- △ カタカナが読めない
- △ 似た文字を間違えて読む

こんな  
支援を!



ていねいに時間をかけて字と音を  
マッチングさせる

## 指導事例

### ひらがなと関連づけて覚える

ひらがなを手がかりに、カタカナを  
覚えていく。

#### ひらがなと関連づけて覚える

- 身近な単語のひらがなとカタカナを併記し、ひらがなの読みをとおしてカタカナを覚えていく。
- ひらがなと形が同じ、または似ている文字をカードにし、先に覚えていくようにする。

#### 間違えやすい字、 字体の似ている字に注目する

- 間違えやすい文字を抜き出し、プリントなどに取り組みながら、字体の似ている部分と違いに注目させて覚えていくようにする。

ひらがなと形が似ている文字から覚える

例	う	ウ	か	カ
	へ	ヘ	せ	セ
	り	リ	や	ヤ

例 ツ・シ・ン など

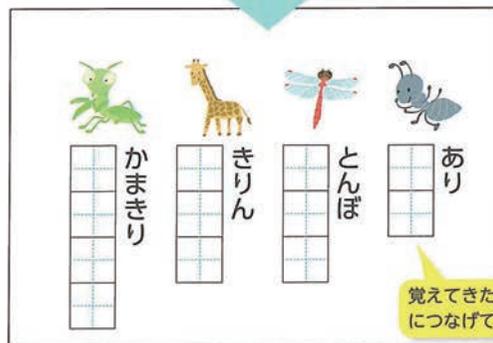
## 留意点

- とくに「書くこと」に抵抗感がある子どもに対しては、まず「読むこと」を目標にした支援法を選択する。

## 支援教材

## 身近な名前プリント

身近な物の絵やひらがなの表記を手がかりにカタカナを学習する



覚えてきたら、書く練習  
につなげてよい

## 特長

カタカナという「新しい文字」を、身近な物や、動物などの読みをとおして覚えていく活動。ひらがなとカタカナを楽しみながらマッチングさせて覚えていく。

## 使い方

- 絵とひらがなを手がかりにして、カタカナを読んでもいく。

## このような場面で

- ▶ 通常の学級での一斉指導で
- ▶ 通級指導教室等での個別指導で
- ▶ 家庭学習で

## point

- カタカナの特性を理解し、時間をかけて支援していくことが定着につながる。
- 漢字は表意文字であることから、ある程度字そのものに意味を持たせることができるが、カタカナはひらがな同様に表音文字のため、字そのものには意味がなく、子どもにとって音と字のマッチングができなければ読めない。また、ひらがなの習得にかかる時間に比べ、カタカナは圧倒的に少ないことも背景因と考えられるため、事例のような点に配慮して時間をかけて支援していくことが大切。

# カタカナが 正しく読めない②

つまずきの  
ようす



- △ 似ている文字を間違えて読む
- △ 文字を見て、音を思い出すのに時間がかかる

こんな  
支援を！



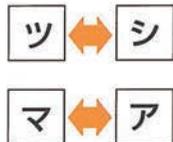
絵カードを手がかりにカタカナとひらがなを  
マッチングさせて覚える

## 指導事例

### カタカナ絵カードでの学習

1日に数枚、絵を見ながら文字の読みを確認し、かるたのように「カタカナ絵カード」を並べて、先生の言った文字のカードを取らせる。慣れてきたら、次のような方法で学習していく。

- 「ツとシ」「ンとソ」「マとア」など、形の似ている文字を抽出して読みの練習を行う。
- 1文字ずつ連続で提示して読ませる。
- 文字のみが書かれた裏面を並べて取らせる。



#### 留意点

- ひらがなをきちんと習得しているか確認してから行う。
- 間違えやすい文字(形の似ている文字)などを指導する場合は、似ている部分や違いに留意するよう助言をしながら支援する。
- 苦手意識を持たずに取り組めるよう、段階を踏んで自信が持てるまでくり返し行っていく。

#### 特長

絵とひらがなを手がかりに、カタカナの読みを覚える活動。

#### このような場面で

▶ 通級指導教室・特別支援学級での個別指導で

手がかりから、ひらがなとカタカナをマッチングさせる

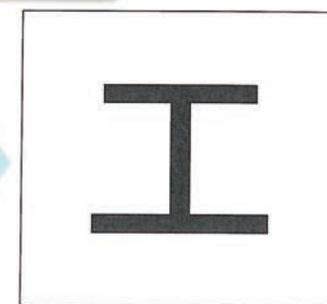
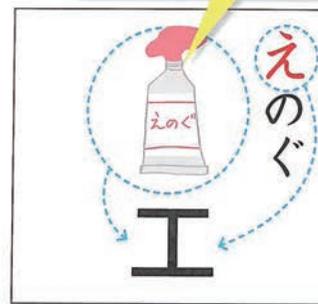
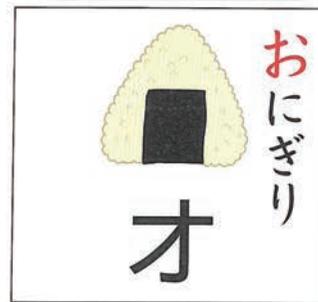


表 絵と文字(ひらがな・カタカナ)

裏 文字のみ(カタカナ)



#### point

- 読むことと同時にカードを見ながら書くなど、書くことの指導もあわせて行うようにする。

# カタカナが 正しく読めない③

つまずきの  
ようす



- △ 文字を見て、音を思い出すのに時間がかかる
- △ カタカナで書かれた単語を読むときに、詰まったり、読み違えたりする

こんな  
支援を!



○ 絵を手がかりに正しい読みを考えて覚える

## 指導事例

### ことば探しシートによる指導

- 1 単語を表した絵の下に、その絵の読みとして正解の単語と、よく似た不正解の単語を書いた用紙を作成して提示する。

#### 提示する単語の組み合わせの例

段階1：文字のつづりがまったく異なる語(同じ仲間であったり、意味は似ている)

段階2：同じ文字からなるが、文字の順序が異なる語

段階3：語尾が異なる文字と置き換えられている語

段階4：よく似た文字と置き換えられている語

単語を  
表す絵



- 2 正しい単語を指すことができれば、先生が用紙をめくりながら、次々と違う絵と単語が書かれたシートを提示していく。
- 3 時間を計測しながら、5～10枚ほどを先生と競争するなど、ゲームのように取り組ませる。

#### 留意点

- 苦手意識を持たずに取り組めるよう段階を踏み、自信がもてるまでくり返し行うようにする。

### 特長

苦手なことに対する抵抗が強いが、視覚的に関係性を捉えるのは得意な子どもなどに、絵を手がかりにしてカタカナの読みを覚えられるよう活用できる。

### 使い方

- 単語を表す絵と、その名前の正解の単語、似ている不正解の単語を記載したカードを作る。

- 子どもに提示し、正しい単語を答えさせる。

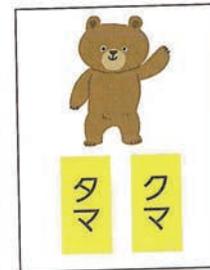
- 少しずつ難易度を上げながらカタカナを覚えていく。

### このような場面で

- ▶ 通級指導教室・特別支援学級での個別指導で

### point

- 5～10枚ほどをできるまでの時間を計し、教師と競争するなどして、ゲーム的に取り組ませる。



#### 段階1

文字のつづりが異なる語

- ▶ カニ・エビ / ネコ・イヌ など



#### 段階2

文字の順序が異なる語

- ▶ カニ・ニカ / ネコ・コネ など



#### 段階3

語尾の文字が異なる語

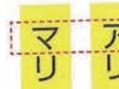
- ▶ サル・サイ / アイス・アイコ など



#### 段階4

似た文字と置き換えられている語

- ▶ タマ・クマ / マリ・アリ など



## 適切な速さで読めない (早い/遅いなど)

つまずきの  
ようす



- △ 音読や会話でことばに詰まったり早口になったりしてしまう
- △ 読むのが遅い

こんな  
支援を!



○ 「早口ことば」で読みの練習をする

### 指導事例

### 早口ことばで読む練習

- 1 子どもに「早口ことばカード」を見せて、一度自由なスピードで読んでもらう(ここでは、読みのスピードに関する指導は行わない)。
- 2 次に、同じ文章を先生が読み、子どもに同じ速さで復唱してもらおう。これをくり返し、先生は標準的な速さをベースに、早く読んだり、ゆっくり読んだりと読むスピードを段階的に切り替えていく。
- 3 さまざまな読みの速さ(3段階以上)で練習し、自分にあった速さや読み方を見つける。見つけた読み方で、スムーズに読めるようになるまでくり返し練習する。



### 留意点

- 失敗へのプレッシャーが強いことも予想されるので、多少うまくいかなくても厳しく指摘しない。一概に「早口はダメ」と指導するのではなく、逆に早口になってもよい教材を活用し、話すことへのプレッシャーを軽減するよう心がける。

### 特長

「早口ことば」をさまざまな速さで読む練習をし、そのなかで課題である「ゆっくり読む」ことも意識させる活動。

### 使い方

- 子どもは自由な速さで早口ことばをよむ。
- 次に、先生に復唱しながら、読むスピードを変えていく。
- さまざまな速さのなかから、自分にあった速さを見つける。

### このような場面で

- ▶ 通級指導教室での個別指導で

なまむぎ なまごめ なまたまご

あかぱじゃま あおぱじゃま きぱじゃま

となりの きゃくは よく  
かきくう きゃくだ

かえるひよこひよこ みひよこひよこ  
あわせてひよこひよこ むひよこひよこ

### ゆっくり読むことの練習

ゆっくり読むことの練習では、メトロノームを使用して1拍1文字程度の速さで練習をするとよい。メトロノームのスピードは子どもに決めさせてもよい。



メトロノームはアプリをダウンロードし、タブレットなどで提示してもよい

# ひらがな・カタカナ・漢字の 混ぜている文がスムーズに読めない

つまずきの  
ようす



- △ 音読の際にスムーズに読めない
- △ 単語のまとまりで読めない

こんな  
支援を!



- 文字を色分けするなど視覚的に工夫する
- 一緒に音読して読みの支援を行う

## 指導事例

### 教科書を視覚的に工夫する

- 教科書の該当ページをコピーし、カタカナの部分に視覚的な工夫をする

- 蛍光ペンで塗る
- カタカナを○で囲む
- スラッシュで区切りを入れる など

○で囲む

そのとき  
ケロケロ となきな  
カエルが  
ピョン とはねまし

- 一緒に音読し間違えやすいところを意識させる

- 1 子どもと先生が声をそろえて教科書を読む。
  - 音読したときに、子どもが省略したり置き換えたりして読んだところに印をつける。
  - 省略したり置き換えたりしたこと子ども自身が気がつき、読み直したらほめる。
- 2 読み終えたら、印がついた一文を読み直す。そのとき、読んでいるところから後ろの文章は音読補助シート(49ページ参照)などで隠す。
- 3 2回目からは、先生は小さめの声で子どもの声に寄り添うようにして読む。
- 4 正確に読めたところは印を消し、うまく読めた実感を持たせる。

- デジタル教科書(次ページ)を取り入れて読みの支援を行う

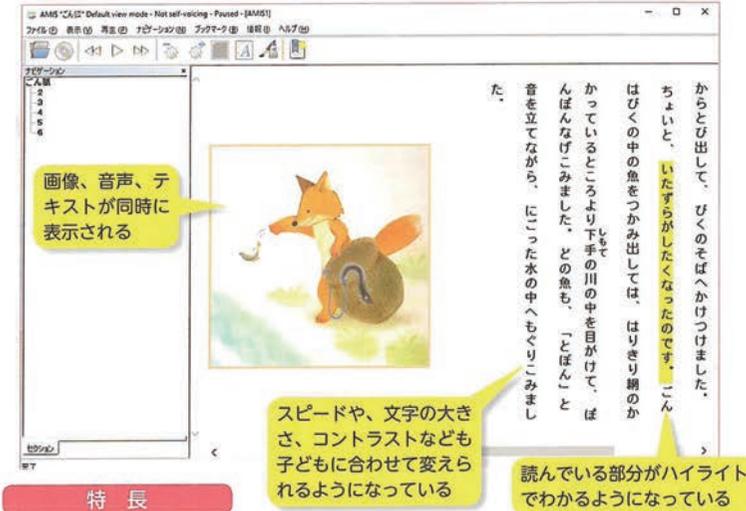
## 留意点

- 指でなぞりながら読むだけで、読み間違いが減る場合もある。
- 単語のまとまりで読めない子どもには、文節ごとにスラッシュを入れる。
- 音読のとき、複数の子どもと一緒に読む、短い文章を読むなど工夫して、子どもが“うまくできた”と実感できるようにすることが大切。

## 支援教材

### マルチメディアデジ教科書

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会  
http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/



視覚障害者や印刷物を読むことが困難な人々のためのデジタル録音図書。教科書の読み上げや、どこを読んでいるのかを視覚的に提示するなどの機能がついている。

- 通常の教科書と同様のテキスト、画像を使用し、テキストに音声を同期させて読める。音声を聞きながらハイライトされたテキストを読み、同じ画面上で絵をみることもできる。
- 色分けされるため、視覚弁別の手がかりとなる。
- 子どもに合った読みのスピードを選択できる。

このような場面で

## 通級指導教室での 個別指導や音読場面

予習の形で取り入れることで、自信を持って授業にのぞめるよう配慮する。パソコンによる通常の学級での一斉指導でも活用できる。

## 利用方法

- デিজターのwebサイト (<http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/>) より教科書のダウンロードの申請を行う。
- 申請許可後、各学年の教科書のデータをダウンロードし、ソフトウェアで再生する。

## 文字や行などを飛ばして読む

つまずきの  
ようす



一度にたくさんの文字が提示されると、どこを読んでいるかわからなくなる

こんな  
支援を!



○ 支援教材を使って読みを支援する

### 指導事例

### 音読補助シートを活用する

#### 活用までの通級指導教室での手順

- 1 使っている教科書を読み、どんなことに困っているかを本人と確認する。
- 2 文字が多い、どこを読んでいるかわからなくなるという理由であれば、以下の方法を試し、どの方法が効果的かを確認させる。

- 1文ずつ提示した文章を読む
- 1行ずつ定規や下敷きで目隠しした教科書を読む
- 指さしをさせながら読む
- 音読補助シートを使って、教科書を読む

- 3 音読補助シートを使って読むことが効果的であると実感できるようであれば、本人とそれが必要な支援であることを確認し、「上手に読むために」活用を勧める。
- 4 次回通級時に活用した感想を聞き、シートの改良(スリットの大きさなど)が必要であれば行う。

#### 通常学級での手順

- 1 音読補助シートを持ってきたときに使用を認める。
- 2 使うことで、読みが上手になった場合は評価する。

#### 留意点

■ 学級全体で、補助教具を活用できるような雰囲気をつくっておくことが重要。教材を使う際にほかの子どもから指摘されるようなことがあると、子どもはどんなに有効であるとわかっていても使用しなくなる。「これを使うと上手に読めるんだ!」とみんなに言えるような、本人への有効感と学級の雰囲気づくりが重要。対象児以外にも約束を決めて、使用を認めてもよい。

### 支援教材

### 音読補助シート

#### シート

#### 特長

前後が目隠しされ、読んでいる行に集中できる

読んでいる行に合わせることで、読む場所に注目しやすく、前後の文章を目隠しができるため、現在の進度がわかりやすい。文字や行を飛ばしてしまう子どもにも活用できる。

- 工作用紙などで簡単に作成できる。
- 子どもに合わせて使いやすい色や素材を選択するとよい
  - スリットの大きさを変える(1行分、2行分など)
  - ハイライト部分は、子どもが見やすい色を選ばせる(青、黄色、白など)
  - 厚紙など不透明な素材だと次の文章へスムーズに移れない場合は、プラスチックなどの半透明な素材にするなど

たおれてい  
花のじんが  
また おきあ  
せのびを  
のびて い  
きます。

#### スリット入りシート

ハイライトの色も、子どもが見やすい色に変えるなど工夫するとよい(図の例は緑色)

おきあ  
せのびを  
のびて い  
きます。

「たんぽぽのちえ」  
光村図書小学2年上より

#### このような場面で

- ▶ 通級指導教室での個別指導で  
使用方法の定着まで活用する。読みやすさを実感したあとは、通常の学級で読む活動の際に使用する。

#### point

- 補助教具を活用して「読みが上手になった」「楽になった」と実感させることが重要である。まずは通級指導教室などの個別場面で活用して実感させ、通常の学級での使用を目指すとうい。
- 子どもによって、使いやすいスリットの大きさやハイライトの色は異なるため、子どもが先生と相談しながら自己決定できる状況をつくるとよい。

## 省略したり置き換えたりして読む (勝手読み)

つまずきの  
ようす



- △ 声に出して読むことに注意がそがれ、文の詳細な表現に注意が及ばない
- △ 文末や助詞などを頻繁に読み間違える
- △ 音が似ている別の単語と読み間違える

こんな  
支援を!



○ 他者の音読を聞いて間違いに気づかせる

### 指導事例

### 音読間違い探し

- 1 子どもは先生の音読に合わせて、「音読間違い探しプリント」を黙読する。
- 2 次に先生が音読する。音読中、わざと文末や音が似ている別の単語に読み間違える。

#### 読み間違いの例

日本一のいいむすめになりました

世界一のいいむすめになりました



#### ○×ピンポンパー



ボタンを押すと光と音が鳴り、正誤を知らせることができます。

株式会社 ジグ  
http://www.kk-jig.com/products/orderno\_7655/

- 3 子どもは、先生の読み間違いに気づいたら、○×ブザーなどで指摘して正しい読み方に訂正する。
- 4 先生は、指摘が正しければ次に進む。指摘が間違っている場合は訂正する。

#### 留意点

- 指導者の音読のスピードは、子どもの実態にあわせて適宜調整する。
- 全体の文章量と間違いの数や誤読のしかたは、子どもの実態にあわせてレベル調整する。

### 支援教材

## 音読間違い探しプリント

### 間違い探し用プリント

正しい物語の文章が表記されている

1 ぶかし、ぶかし、ある家のおくらの中に、お米をもって、お金もちのねずみが住んでおりました。  
子どもがいないのでかまさまにお願いしますと、やっとおこの子が生まれました。その子はずんずん大きくなって、かやくほどくしくしくなって、それはねずみのお園でたれひとりくらべるものがない日本一のいいむすめになりました。  
こうなると、もうねずみのなかまには見わたしたところ、とてもむすめのおむこさんにするような者はありませんでした。ねずみのおとうさんとおかあさんは、「うちのむすめは日本一のおむすめなのだから、なんでも日本一のおむこさんをもたらなければいけない」と言いました。

### 指導者用プリント

数か所、わざと表記を変えて作成する

1 ぶかし、ぶかし、ある家のおくらの中に、お米をもって、お金もちのねずみが住んでおりました。  
子どもがいないのでかまさまにお願いしますと、やっとおこの子が生まれました。その子はずんずん大きくなり、かやくほどくしくしくなり、それはねずみのお園でたれひとりくらべるものがない世界一のいいおむすめになりました。  
そうすると、もうねずみのなかまには見わたしたところ、とてもむすめのおやかたにするような者はありませんでした。ねずみのおとうさんとおかあさんは、「うちのむすめは日本一のおむすめなので、なんでも日本一のおむこさんをもたらなければいけない」と言いました。

出典：楠山正雄「ねずみの嫁入り」

#### 使い方

- 物語などの文章のプリントを2枚作成する。
- 1枚目は正しい文章、2枚目は数か所表記を変える(子どもの実態にあわせて漢字には振り仮名を振る)。
- 音読し、子どもに間違いを指摘させる。

#### このような場面で

#### ▶ 通級指導教室での個別指導で

通常の学級での放課後の補充指導や、一斉指導での応用も期待できる。

#### point

- 意欲と集中を維持させるために少人数のグループ指導で行うとよい。

## 似ている文字を間違えて読む

つまずきの  
ようす



- △ 形の似ている文字を読み間違える  
([め]と[ぬ]、[れ]と[ね]と[わ]、[ろ]と[る]など)
- △ 視空間認知が弱いために、文字の細部に気づかない

こんな  
支援を!

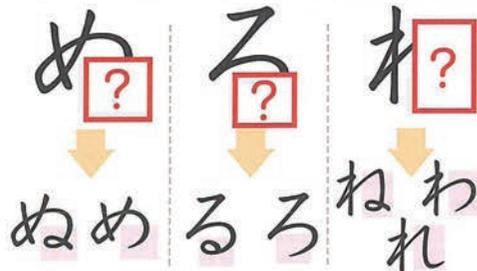


○ 形の違いがわかるように文字の一部に  
焦点をあてて示す

### 指導事例

### 文字の特徴に注目する

- 1 子どもが似ていて間違えやすい文字を確認する。
- 2 「紙皿文字」を作り、先生がゆっくり切れ目を動かし、子どもに出てくる文字を予想させる。
- 3 活動を何度か行い、文字の「形の違い」を確認したら、紙皿の文字を使った単語を考えさせる。



#### 単語例

[め]と[ぬ] → [かめ][ぬりえ]    [ろ]と[る] → [ろば][るすばん] など  
[れ]と[わ] → [れもん][わに]

- 4 色鉛筆やクレヨンなど、子どもの好きな筆記具で考えた単語を書く練習をさせる。

#### 留意点

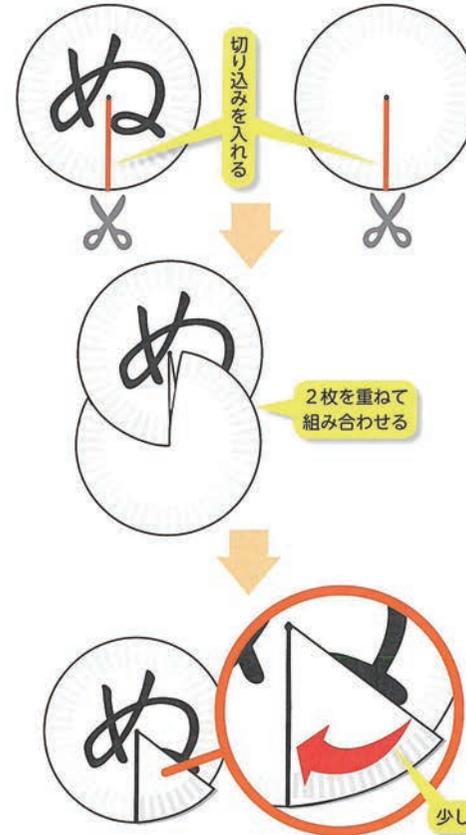
- 単語を書くときは、マス目が大きいプリントなどを用意する。
- 筆記用具は、色鉛筆やクレヨンなど自分で好きな筆記具を選ばせると、興味をもって取り組むことができる。



12\_紙皿文字.pdf

### 支援教材

### 紙皿文字



#### 特長

似ている文字の着目点を隠し、文字の一部に焦点をあてる練習をする活動。

#### 使い方

- 1文字に対して、2枚の紙皿を用意する。
- 1枚の紙皿に文字を書き、注目してほしい(形が似ているなど間違えやすい)部分の近くに切り込みを入れる。
- 何も書いていないもう1枚の紙皿にも、同じように切り込みを入れて2枚を組み合わせる。
- 少しずつ切れ目を動かしていき、形の違いに注目させながら文字を予想させる。

#### このような場面で

- ▶ 通常の学級での一斉指導や個別指導で

#### point

- 活動に慣れてきたら、子ども自身に紙皿を操作させると意欲が継続しやすくなる。

## 漢字が読めない①

つまずきの  
ようす



△ 読むことの苦手意識が強いために、漢字を覚えることをあきらめてしまう

こんな  
支援を!



身のまわりの「生活漢字」を見つけて  
読む練習をする

### 指導事例

### 生活漢字を探す

- 1 子どもにデジタルカメラを持たせ、指導者と校内を歩き、漢字が書かれている表示物を見つけさせる。
- 2 表示物を見つけたら、先生は表示物の漢字の読み方と意味を子どもと一緒に確認する。
- 3 子どもに、気に入った表示物の写真を撮ってもらう。
- 4 先生は撮った写真を印刷し、漢字の読み方を子どもと再確認する。
- 5 子どもは、覚えた漢字の写真をファイルに綴じる。



消火器

### 留意点

- デジタルカメラを子どもに持たせ、興味をひく漢字に注目するようながす。
- 活動に慣れてきたら、ペットボトルや牛乳パックなどの漢字表示や、広告に書かれている漢字などへと興味の対象を広げるようにする。

### 支援教材

### 生活漢字ファイル

学校内にある漢字の書かれている表示物を見つける



子どもがデジタル  
カメラで撮影する



撮影した掲示物を先生がプリントアウトし、ファイルに綴じる。子どもが収集したチラシや包装紙、食品のパッケージなどをファイリングしてもよい

参考文献●  
永井智香子、守山恵子「生活漢字」  
教材作成の試み」長崎大学留学生セ  
ンター紀要 第8号、31-41、長崎大  
学(2000)

### point

- 子どもにとっての漢字の学習は、「国語の教科書に出てくる新出漢字を覚える」という意味合いは強いが、「生活のなかに漢字はたくさんあり、それを読むことができるようになると、自分の生活が便利になる」という実感をもたせることが大切。



# 漢字の音読み・訓読みが正しくできない

つまずきの  
ようす



△ 教科書やプリントを読むときに、音読み、訓読みが正しくできない

△ ことばを一度聞いただけでは覚えられず、語彙が少ない

こんな  
支援を！



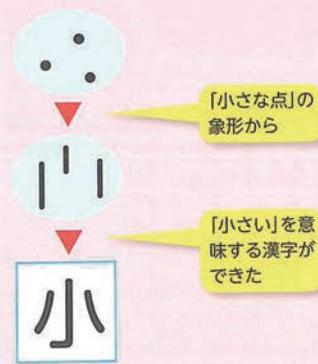
「目で見える」「音読する」など  
いろいろな感覚で覚える練習をする

## 指導事例

### いろいろな方法で文字を覚える

- 漢字の成り立ちを確認し意識させる
- 漢字の訓読み・音読みを教える  
例 訓読み……ちいさい・こ・お  
音読み……ショウ
- その漢字を使ったことばを見つける  
例 「小さい」「小学校」「小鳥」
- その漢字を使い、文を作ってみる  
例 「小さい花を見つけた」  
「小鳥はかわいい」
- 作成した文章を子どもに音読させる

例 「小」の成り立ちから形を意識する



## 留意点

- 耳慣れないことばの熟語や音読みの漢字は覚えにくく、自分が間違っただけでもそれに気づけない子どももいるため、子どもが正しく読めているかどうかを確認する必要がある。間違っていた場合は、正しい読み方を言って教えるだけでなく、文字にして視覚的にも提示すると、どこが間違っていたかがわかりやすくなる。

## 支援教材

### 漢字マッチングカード

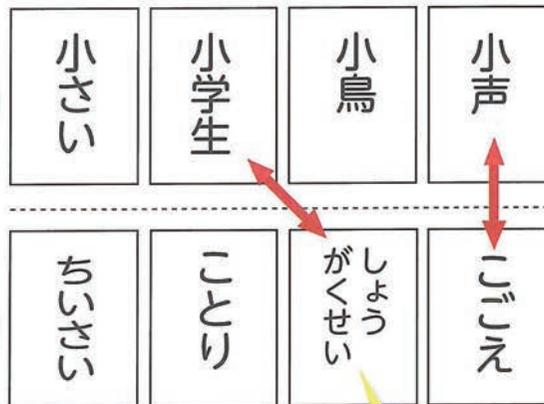
#### 特長

特定の漢字を使った単語や熟語でカードを作成し、文字と読みのマッチングをしていく。

#### 使い方

- 先生は、子どもが読めない漢字が使われていることばの単語や熟語をたくさん出して、カードを作成する。
- ならべて見せたり、トランプの神経衰弱のように読みと文字が合うカードを探させたりしながら、漢字の音読み・訓読みを覚えさせていく。

漢字カード



読み方  
カード

このような場面で

マッチングするカードを選んでいく

▶ 通常の学級で、新出漢字や読み替え漢字を練習するとき

## point

- 子どもの日常生活のなかでよく耳にすることばを使い練習すると、より理解しやすくなる。
- なかなか読み方を覚えられない漢字には、振り仮名を振ってあげると視覚からも覚えやすくなる。また、正しく読めるという安心感から自信をもって音読練習ができるようになり、体感的に読みを覚えていくことができる。

# 音読はできるが 意味の理解が難しい①(国語)

つまずきの  
ようす



- △ 音読はできて文の内容の理解が難しい
- △ キーワードの意味の理解や全体の文脈の理解が難しい

こんな  
支援を!



文章の内容に即した視覚的補助で、  
意味理解をうながす

## 指導事例

## 紙芝居により視覚的補助を提示する

- 音読の前後に、内容に関する写真や絵、図などの視覚的補助を提示し、提示した絵について、いくつかポイントになることを確認する。
- 子どもに文章の音読をさせる。
- 写真や絵、図をもとに、先生が子どもに内容についての質問をしながら、文章の意味理解をうながしていく。

なにが?

いつ?



どうなるの?

「たんぽぽのちえ」光村図書小学2年上より

このころになると、それまで、  
たおれていた花のじくが、また  
おき上がります。そうして、せのびを  
するように、ぐんぐんのびていきます。

### point

- 対象児だけでなく、通常の学級でも単元学習をはじめる前に提示すると、音読の際の内容理解をうながすことができる。

## 支援教材

## あらすじ紙芝居

簡潔にしたあらすじ

内容に即した図や写真

特長

たんぽぽのちえ

春になるとたんぽぽの  
きれいな花がさきます。  
二、三日たつと  
だんだん黒っぽい  
いろにかわってきます。



花のじくは、地面に  
たおれ、たねを  
太らせるのです。



このころになると、  
せのびをするように  
ぐんぐんのびていきます。  
せいを高くする方が、  
わた毛に風がよく  
あたるからです。



よく晴れた風のある日、  
わた毛のらっかさんは  
とおくまで  
とんでいきます。



しめり気のある日には、  
らっかさんは、  
すぼんでしまいます。  
わた毛が、しめって  
たねがとおくまで  
とばないからです。



音読の前に、図や写真で「あ  
らすじ」を理解させることで、  
文章の意味理解をうながすこ  
とができる。

使い方

- 学習する物語の内容に関する内容の写真や絵などをつかい、あらすじに沿って内容を簡潔にした「紙芝居」を作成する。

- 音読の前に提示して、文章の意味(あらすじ)を理解させてから学習に入る。

このような場面で

- ▶ 通常の学級での一斉指導や個別指導で

- ▶ 学習の「はじめ」や「終わり」に学習のはじまり(音読の前)や終わり(音読や学習の振り返り)に、内容の確認として活用する。

たんぽぽは、いろいろな  
ちえを はたらかせて  
なまを  
ふやすのです。



## 音読はできるが 意味の理解が難しい②(算数)

つまずきの  
ようす



△ テストなどで、問題文の細部を読まずに  
思い込みで誤答してしまう

こんな  
支援を!



○ 一学年下のレベルの文章問題に取り組む

### 指導事例

### 文の細部を読み解く練習

- 1 文章題のプリントを提示する。
- 2 子どもは問題文を音読し、問題を解く。
- 3 その間先生は、つねにようすを見て、子どもの発するつぶやきや立式方法から誤答しそうなようになっていたら、○×ブザーの「×」で知らせる。
- 4 子どもはそのつど問題を見直し、訂正する。
- 5 先生は、子どもが誤りに気づき、正しく訂正できたら、○×ブザーの「○」で知らせる。
- 6 解答の採点をし、正解なら次の問題に進む。



### 留意点

- 子どもの気づきをうながすため、正誤はブザーのみで知らせ、具体的な指摘や説明は極力控えるようにする。
- “間違いを訂正できたこと”をほめ、文の細部を読み解くことと、修正することの大切さを伝えるよう努める。
- 四則計算が定着していて、算数が好きな子どもにとくに有効。

### 支援教材

### ハイクラステスト算数

株式会社 増進堂・受験研究社

<http://www.zoshindo.co.jp/elementary/291/>

### 特長

- 計算が得意で、下学年までの算数の学習内容がよく定着している場合にとくに効果的。

当該学年の問題集では、計算を解くことに注意が削がれ、問題文に集中しづらい。計算の負荷を軽減し、問題文の意味理解に注意を集中するため、一つ下の学年の問題集を選択する。



ハイレベルな書き込み式の問題集。ステップ式で学習を進められるようになっていて

- 標準クラス問題
- ハイクラス問題
- チャレンジテスト
- 仕上げテスト

などが掲載されている

### このような場面で

- ▶ 通級指導教室での個別指導で通常の学級の放課後の補充学習や、家庭学習の課題としても活用できる。

### point

- 自分の間違いを見つけて訂正できた達成感を感じられるよう、ことばがけをしていく。
- 細部に注意を向けて問題を最後まで読むことが意識できると誤答が少なくなり、意欲を高めることができる。

## 子どもの意欲を 引き出すために

### 努力だけでは難しい

通級指導教室や個別の指導場面で課題に取り組ませる際、子どもの学ぶ意欲を引き出すにはどうしたらよいのでしょうか。「なかなかやる気が出ない」「苦手なことには取り組もうとしない」などは、よく聞くことばです。

しかし、子どもの立場に立って考えてみるとどうでしょう。「苦手なことをやらされる」「できないと言っているのに『やれ』と言われる」ということになってはいないでしょうか。

学習上の困難さは、子どもの認知特性と関連していることが多く、努力だけでどうにかなるものではありません。また、「できない」ということは、その子どもの弱い能力と関係していることが多いので、子どもにとって苦手なことへのチャレンジは、とてもハードルの高いことだという認識が必要です。

たとえば、自分に置き換えて考えてみてはどうでしょう。運動が苦手だけれどダイエットをしたいときや、人前で話すことが苦手なのにスピーチをたのまれたら、どんな工夫をしますか？ 少しでも自分のやりやすい方法を探すのではないのでしょうか。または、自分へのご褒美を準備したり、分量や時間を決め少ない量

からはじめたり、比較的簡単な課題から取り組むなどといった工夫をするかもしれません。それは、子どもも同じです。苦手なことに取り組ませるなら、興味のあることを活用した問題を作ったり、その子どものやりやすい方法の検討が重要です。分量の調整、ご褒美の準備も大切ですね。

### 自ら学ぼうと思える工夫を

また、これらの前に、まずは子どもの認知特性についての実態把握が必要です。そのうえで、子どもの得意不得意をどう活用するか検討してください。学習は修行ではありません。子どもたちが自分にとってより取り組みやすい方法を見つけ、そのやり方で「できた」という経験を積み、意欲を持って自ら学ぼうとすることが大切だと考えます。そうであれば、小学校から高等学校以降までの長い期間学び続けるのは、とても難しいと思います。「やってみたらできた」「がんばったらできた」という成功体験はとても重要です。その積み重ねのなかで、新しいことにもチャレンジしようとする勇気がわいてくるのだと思います。

子どもたちがいつまでも学ぼうとする意欲を持ち続けられるように、ぜひ、学ばせる方法を工夫してみてください。

小さい「つ・ツ」が 入る ところに「△マーク」をいれましょう。

- みずが いぱい はいている コプ
- えきで きぷを かて しゅぱつする
- うかりして たいへんな しぱいを した
- いせいのせいで にらめこを する
- せんせいが しゅせきを とた
- サカーで ふくが まくろに なた
- ポケットに てを 入れるのは みともない
- きゅうこうれしゃが てきょうを とおる
- やまの てぺんにはたが たている
- こおりで すべて ころがた
- まくらな よるの みちを はした
- リュクサクを しょて しゅぱつする

ふろく  
2

どんなものかな？

PDF

42\_ふろく2.pdf

右の絵を見て 4つのしつものに 答えましょう。

1

1. なにのなかまですか？
2. なに色ですか？
3. どんな味がしますか？
4. どこにありますか？



2

1. なにのなかまですか？
2. なに色ですか？
3. どこにいますか？
4. なにをたべますか？



3

1. なにのなかまですか？
2. なに色ですか？
3. だれがのりますか？
4. どんな音がしますか？



ふろく  
3

つづけて読んでみよう！

PDF

43\_ふろく3.pdf

それぞれの文字を、つづけて読んでみましょう。

2文字

あか うえ きた かた こま つえ いえ  
ふね ゆり かさ くさ ける こな すな  
せみ もち てつ とち なわ はり ひま  
へた ほん めも ゆか らく りか るす

3文字

あした いるか ぬりえ おなか さかな  
しんし せなか そせん つづき てんき  
といれ なかま ぬるい ねまき のはら  
ふるい へいき むすこ めあて よそみ

4文字～5文字

あやとり いすとり あいうえお  
かきのみ くわのみ かきくけこ  
たこいと つりいと たちつと  
なのはな ののはな なにぬねの  
はるのひ ふゆのひ はひふへほ

絵をみてかんがえてみましょう。



1. ふたりはなにをしていますか？
2. ふたりはこれからなにをして遊ぶ<sup>あそ</sup>おも<sup>おも</sup>と思っていますか？
3. どうしてふたりはまだ遊んでいないのですか？
4. ふたりはどんな気持ち<sup>きもち</sup>でしょう？
5. こんなときあなたならどうしますか？
6. このあとどうなるとおも<sup>おも</sup>いますか？
7. あなたのことを教えて<sup>おし</sup>ください。
  - どんなおともだちと遊ぶ<sup>あそ</sup>んでいますか？
  - あなたはいつもなにをして遊ぶ<sup>あそ</sup>んでいますか？
  - この絵<sup>え</sup>のようなことがありましたか？